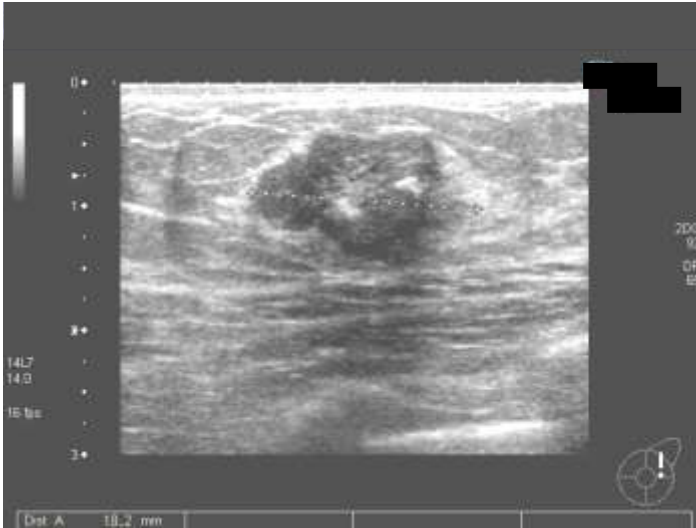


問 13

次のうち、画像にあてはまるものはどれか？正しい記号を 2 つ答えよ。



- a. 乳腺外の腫瘍である。
- b. 石灰化が認められる。
- c. 筋層への浸潤が認められる。
- d. 若年者に多い所見で 20～30 歳である。
- e. 形状はやや不整である。

解答 b,e,

a, 乳腺実質は衰退し、局在を確定することは困難ではあるが、前面の脂肪織、後面の筋層を鑑みると腫瘍の存在部位が乳腺組織であることが推察される。

筋肉組織から派生したものは否定的ではあるが、この時点では表在（皮下）腫瘍は否定しきれない。

b,腫瘍の中心部と右側に 2 箇所粗大な石灰化が認められる。

c,筋層は腫瘍の後面で層状に確認され、引き連れや浸潤は認められず、悪性組織の進展は考えづらい。

d,乳腺組織は非薄で明確には認めづらいが、乳腺領域の腫瘍であることは明白である。

しかし、このように乳腺実質が少ないと考えられる場合は、年配の女性で乳腺実質の退行が著しいと考えられる。

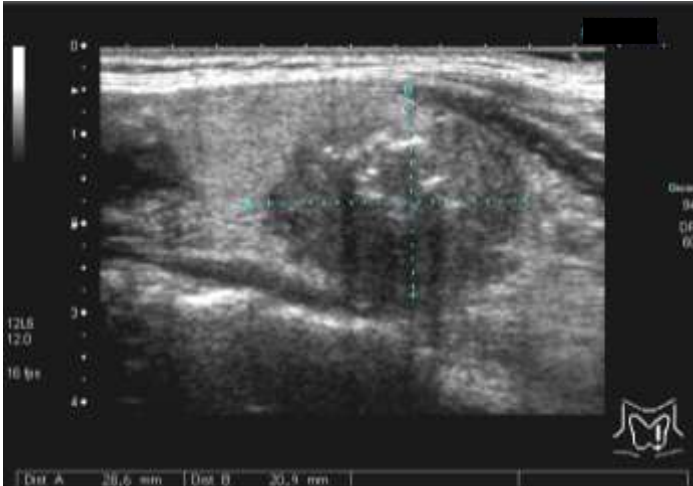
e. 形状は楕円形ではあるが、所々で不整形であり、また分葉化とも言えない。

病理診断：乳頭腺管癌（面包癌）

問 39

次のうち、画像にあてはまるものはどれか？

正しい記号を2つ答えよ。



- a. 微細な石灰化を伴い悪性の可能性が高い。
- b. 明らかに前頸筋群に浸潤している。
- c. 境界部低エコー帯が不整で乳頭癌の可能性が高い。
- d. 縦横比が高く、悪性の可能性が高い。
- e. 食道に接しているため、浸潤の可能性を考慮し、嚥下テストを行った方がよい

解答 c.e.

a,石灰化はどちらかと言うと粗大でこれのみでは良悪性の決定打とはならない。

b,前頸筋群とは接しているものの浸潤は明らかではない。

c,境界が明瞭なのか不明瞭なのか？またその低エコー帯が整なのか不整なのかは良悪性を判断する上で重要な所見となる。
本症例では不整または無しとして問題はない。

d,縦横比は乳腺で主に用いられる診断基準で、甲状腺にはない。

e,浸潤の有無が分からない場合は手で押すなどの圧を加えたり、嚥下による動きを見たりして、腫瘤の柔らかさやすべり現象を見て、判断することも有効である。

病理診断：甲状腺乳頭癌